

牧羊ひろば

峰山教会・教会学校

◆峰山教会学校の環境

峰山教会は、京都府最北端の丹後半島にある京丹後市の市庁舎前に建っています。丹後半島には古墳が五千もあり、千五百年前には丹後王国が存在していたと言われていた古代の町で、今も檀家制度で生きている典型的な地方です。昔から絹織物が主産業の農漁村中心の町でしたが、『丹後ちりめん』が衰退後、それに変わる産業が育たず、経済不況のあおりを受け、倒産が相次ぎ、日本一自殺者の多い町と言われ、市内に限界集落が三十五を数える過疎化の進む現状です。

峰山教会は八十四年の歴史を持っています。ちりめん産業が盛んであった三十年前には、教会学校には百人ほどの生徒が集い、教会活動の中心が教会学校に置かれていました。この教会学校活動の中から、今も教団の内外で活躍中の献身者が、何人も起こされています。その中の一人、谷垣雄三医師は、現在アフリカのニジェールでシユバイツアーの様な医療活動をしてられます。彼は、中高生の時、峰山教会学校の生徒の一人でした。



谷垣雄三医師 峰山を訪ねて
先年帰国の折、教会をお訪ねくださり、「良きサマリヤ人の話を聞いて、私は医者になりアフリカに命を捧げる事になりました」と、お証しくされました。当時の高校の同窓生たちが、支援会を組織して谷垣医師を支援しています。その多くが教会学校の同窓生でもあります。これも教会学校活動に対する、神様の祝福の一つだと信じています。

◆峰山教会における教会学校の位置

この牧羊ひろばを書くにあたり、現在の教会における教会学校の結実を整理してみました。六月の礼拝出席名簿にある方々のうち、クリスチヤン一代目の人が二十九人。二代目が二十九人、三代目が十人。教会学校の生徒では、四代目が六人、三代目が十七人、二代目が四人、教会員以外の子ども三人でした。



幼児祝福式

毎週の礼拝出席者のうち、二代目以上の人が多いという事をあらためて確認できました。これは、教会員が子どもたちを教会学校に導き、信仰の継承に努めてきた結果だと言えるでしょう。実は、この事実は私



献児式

就職するのです。

教会の青年のほとんどが、教会学校教師として訓練され長年奉仕に携わってきたのですが、その結実のほとんどを都市部の教会に託する事になってきました。このために、教会学校活動の大切さを自覚しながらも、正直なところ、同時に虚しさも伴って来ます。地方教会として、教会の宣教方針の中心をどこに置いたらいいのだろうか、祈らせられる課題でした。

先日の特伝の時に用いたアンデレカード（求道者カード）には、百五十人ほど登録されています。この名簿の中で、かつてのCS関係者は、三分の一を占めておりました。またキリスト信者の中で、子どもたちに教会学校との何らかの触れ合いを経験している人は、半分以上あるように思います。この峰山においては、教会を訪ねてくる人たちのほとんどが、現在の教会員による紹介か、かつての教会学校体験者なのです。三十年、四十年前の教会学校の体験が、今の教会活動を支えている事が分かりました。

にとっても大きな驚きでした。と言うのは、丹後には、高校より上の教育機関が一つありません。また、この地域には就職できるような産業が無いいため、ほとんどの子どもは、高校を卒業するとこの地域を離れ、都市部の学校に進学するか、



進級式

◆現在の教会学校活動

現在の在籍数は小学生以下が二十八人です。毎週の出席数を平均すると八人ほどです。そのほとんどが信徒の家族です。五年前までは、一般礼拝と並行して教会学校をしてきましたが、

新会堂に移ってから、大人と一緒に礼拝をし、説教の時間を分級にして、小学生以下の子どもたちは、別の部屋で「牧羊者」をテキストに教会学校をするように致しました。教会員子弟は、親子揃って教会に来るため、以前のように一般礼拝前に教会学校をする事が出来ません。大人の礼拝と並行すると、牧師による祝福を子どもたちが受けられない事になります。教会学校の卒業生で、大人の礼拝に残る生徒は親と一緒に一般礼拝に出席している生徒が、圧倒的に多い過去の経験から、親子揃って礼拝をささげる形に切り替えたのです。

◆見えてきた課題

現在、教会学校教師は五～七人が担当しています。それは、母親の手を離せない乳幼児の場合、母親も教会学校に同席する事が多いからです。このことから、母親の魂の課題が出て来ました。教会学校教師のために、第一部礼拝を用意しています。が、出席不可能な教師もあります。また、牧師が教会学校の現場を見ていないため、教師や教会学校

に対する適切な指導ができない状況があるのです。もう一つの大きな課題は、積極的な伝道が出来ていない事です。毎週の活動は、基本的に現状に即した対応に起因した方法なので、現状維持意識が根底に横たわっています。また、教会の周辺地域は高齢者家庭がほとんどです。子どもがいる住宅地区から、子どもを教会に連れて来るには、毎

週自動車による送迎が必要になります。ですから、個人の自由な生活時間を保てなくなり、生徒の親御さんから敬遠されるケースが度々起こるのです。

◆課題に対する対策

子どもの特別集いを年三回開いて、教会学校生徒たちの周辺にいる親しくしている子どもたちを教会に誘っています。

①進級式前後に「餅つき大会」を開催

この日は、教会学校と合同礼拝にして、賛美や交誦なども、子ども讃美歌の中から選び、礼拝メッセージも、フラインググラフを制作して、大人も子どもも楽しめるものにします。午後、餅つきをして、



もちつき大会



もちつき大会（合同礼拝）

②夏休みに、ファミリー・キャンプを実施

高齢者の方々に餅の扱い方を指導してもらいながら、出席者全員で楽しみます。

生徒たちの母親は教会員である場合が多いのですが、そのぶん父親が取り残されている感があります。家族で教会に泊まり、



ファミリーキャンプ
壮年会の登場



ファミリーキャンプ
お父さんの登場 水辺の遊び



ファミリーキャンプ
朝食

父親が生活奉仕の中心になつてもらって、家庭づくりを期待しながら、土・日の一泊キャンプを致します。土曜日は、壮年会担当で会場の設営から、夕食の準備にあたつてもらいます。その間に、子どもたちは、夏休みの宿題に役立つような、工作をします。どんぐりと小枝を使って、人形作りをしたこともあります。生徒の中に、「折り紙博士」がいますので、彼に指導者になつてもらい、創作折り紙と舞台を作ったこともあります。聖日は、婦人会の担当で、宿泊者の朝食、生徒たちの生活指導をしてもらいます。そして礼拝は合同礼拝です。昼食は、出席者全員でおにぎり定食を頂きながら、楽しいひと時を教

会全体で持ちます。

③こどもクリスマスを開催

①②に誘った子どもたちを中心に広く招待し、学校が休みの土曜日に開いています。朝十時に始まり、先ずクリスマス・カロールを数曲教え、初めてきた子どもでも一緒に礼拝に臨めるようにします。紙芝居や人形劇、フランネル・グラフなどを用いて、聖書のクリスマス物語を中心に福音を伝えます。昼食後に、工作やゲームなど楽しい時を持ちます。昨年は、一人一人にスポンジケーキを渡し、生クリームや飾りになるお菓子を用意して、デコレーションケーキ作りをしました。「家に帰ってお母さんと一緒に、クリスマスケーキを作れたら良いね」と勧め、子どもたちの家事参加を促します。

何年も続けるうちに、毎回集う子どもたちも増えて、三十人を越える子どもたちが集います。最近では、保護者の何人もが同行してくれるようになりました。

◆その他の日常的対策

峰山教会は、どの地方教会も抱えているように、出席者の大半が年配者です。そこで、一番の課題を後継者の育成に置いていました。若い人たちをなかなか導けないことに悩みを強くもっていたからです。私は、「この町にはあなたと同じような年配者が大勢いるのだから、自分が日ごろ親しくしている、自分と同じ世代の友人を誘いましう」と、勧めました。そして、「私の働きは、その方のお孫さんが教会に来られるようにする事です」と宣言しました。普段から親しんでいる同年輩の友人ならば、地区集会や特伝にも誘えると、アンデ

レカードの名簿も増え、誘われて集会に来てくださる方も与えられるようになりました。八年目を迎えた現在、礼拝に子どもや孫を連れてくる方が、十家族を数えるようになりました。

来られた子ども（嬰兒）たちと、礼拝後一人一人目を合わせて、一人の人間として対話します。彼の興味を持つている物に注目し、関心を寄せ質問します。時には、宿題を出します。「○○ちゃん、その花の名前、先生に教えてくれない？家に植物図鑑があつたけど、あれを見ると、何種類もあるはずなんだ」。次の週、彼に会った時、必ず宿題の答えを尋ねます。自分から言い出す子は少ないですが、子どもは必ず調べてきます。一人一人の将来を広げる可能性のある、対話を重ねるのです。だれでも自分を認めて、自分に期待を寄せてくれる人を求めていますので、良い関係を結ぶことができるのです。そのうちに、子どもが親を促して教会に来るようになるのです。この関係づくりがうまくいくと、間違つたことをした時に、厳しく叱つても素直に従うようになります。現在、オンラインピックを目指す者、学者、実業家、芸術家、料理人、音楽家に挑戦しつつある青年たちが、各地に出て行っています。子どもの頃の神様との出会いを通して、今は直接教会とはつながっていないくとも、彼らの心は、神に捉えられているのです。教会学校としての形は、現在、整えられているとは言えません。現状に即した一つの対策です。それは、教会学校という形にとらわれず、生徒たち一人一人の魂とその生涯を神との関わりで打ち立てることであり、神様との出会いの場を提供する働きである、と受け取つたら良いと思っています。（水川武志）

「おわりに」

『牧羊者』二〇一〇年度第Ⅲ巻をお届けできますことを感謝します。執筆者の方々には、新しい年度が始まったあわただしい中を、また、夏の諸準備のあるこの時期に貴重な時間を割いて執筆していただき、心から感謝いたします。今回は、「牧羊者使用状況アンケートの集計」の後半（その2）と、「牧羊者の用い方：メッセージの準備のために」の前半（その1）を掲載しました。また、「牧羊ひろば」では、峰山教会の八十四年間の歩みと現在の課題を紹介していただきました。終わりに今号の執筆者、奉仕者を紹介いたします。

聖書講解

研究資料

メッセージ例

ワーク(A)

ワーク(B)

ワーク(C)

ワーク(D)

中高科へのヒント

子ども聖書日課

フラッシュカード

イラスト

ワークB打ち込み

校正

また、陰で労してくださった各師と兄弟姉妹、ワーク印刷と発送のベラカ出版、印刷のあくもと菱三印刷に心から感謝いたします。（長尾秀紀）

聖書教育教案誌 牧羊者

二〇一〇年度 Ⅲ巻

二〇一〇年十月一日発行

発行所 有限会社 ベラカ出版

企画監修 日本イエス・キリスト教団教会学校局

神戸市兵庫区塚本通三三一九

電話(〇七八)五七五五一一

FAX(〇七八)五七五五一一

印刷所 菱三印刷株式会社

電話(〇七八)五七六一三九六一

*日本聖書協会『口語訳聖書』使用許諾済み